

富良野市の健全化判断比率（令和元年度）

1. 健全化判断比率の状況

	富良野市	早期健全化基準（市町村）	財政再生基準（市町村）
実質赤字比率 ・ 一般会計等の実質赤字の比率	- （赤字なし）	財政規模に応じ 11.25～15% <u>（富良野市：13.80%）</u>	20%
連結実質赤字比率 ・ 全ての会計の実質赤字の比率	- （赤字なし）	財政規模に応じ 16.25～20% <u>（富良野市：18.80%）</u>	30%
実質公債費比率 ・ 公債費及び公債費に準じた経費の比重を示す比率	7.2%	25%	35%
将来負担比率 ・ 地方債残高の他一般会計等が将来負担すべき実質的な負債を捉えた比率	30.2%	350%	-
公営企業における資金不足比率 ・ 公営企業ごとの資金不足の比率 （水道、ワイン、簡水、下水）	- （各々の会計において資金不足なし）	20%	-

2. 健全化判断比率における各指標について

(1) 実質赤字比率（総括表②）

(千円)

$$\text{実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計等の実質赤字額 (}\triangle 154,267\text{)}}{\text{標準財政規模 (7,829,078)}} = \triangle 1.97\% \text{ (}\triangle\text{負の値は黒字を示す)}$$

標準財政規模 (7,829,078)	
標準税収入額	3,121,142
普通交付税額	4,423,080
臨時財政対策債発行可能額	284,856

(2) 連結実質赤字比率、資金不足比率（総括表②、2①表）

(千円)

$$\text{連結実質赤字比率} = \frac{\text{一般会計・特別会計の実質収支、企業会計の資金不足(剰余)額の合計 (}\triangle 1,863,877\text{)}}{\text{標準財政規模 (7,829,078)}} = \triangle 23.80\%$$

全会計において黒字 【水道、ワイン、簡水、下水 各会計において資金不足なし】

(△負の値は黒字を示す)

(3) 実質公債費比率（総括表③）

3カ年平均値：7.2%（平成29年度：7.37085%、平成30年度：7.12526%、令和元年度：7.11352%）

参考（下記数式は令和元年度）

①元利償還金の額	④公営企業の地方債償還に充てた繰出金	⑤組合等の地方債償還に充てた負担金	⑥公債費に準ずる債務負担行為	⑦一時借入金 利子	-	⑧特定財源の額	⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑪密度補正により算入された準元利償還金	
(千円)										
$1,118,436 + 295,502 + 55,502 + 87,423 + 0 - (171,678 + 170,641 + 712,287 + 8,765) = 7.11352\%$										

標準財政規模 (7,829,078) - (170,641 + 712,287 + 8,765)

⑨事業費補正により基準財政需要額に算入された公債費	⑩災害復旧費等に係る基準財政需要額	⑪密度補正により算入された準元利償還金
---------------------------	-------------------	---------------------

(4) 将来負担比率（総括表④）

①地方債現在高	②債務負担行為に基づく支出予定額	③公営企業債等繰入見込額	④組合等負担等見込額	⑤退職手当負担見込額	-	⑦充当可能基金	⑧充当可能特定歳入	⑩基準財政需要額算入見込額	
(千円)									
$11,475,983 + 192,559 + 3,229,238 + 360,494 + 2,447,790 - (3,553,742 + 2,175,165 + 9,878,861) = 30.2\%$									

標準財政規模 (7,829,078) - 算入公債費等の額 (891,693)